

Tour of Japan 開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

I. はじめに

本ガイドラインは、ツアー・オブ・ジャパン(以下「TOJ」)を開催するにあたり、参加者における新型コロナウイルス感染症拡大防止、リスク軽減のための対策について、各機関の提言等を参考に、TOJ 開催に特化し、作成したものです。TOJ に参加する皆様には、本ガイドラインに沿った予防対策を必ず実施いただくよう、お願いいたします。

なお、大会の開催に際しては、日本政府(厚生労働省、スポーツ庁、日本スポーツ協会、JOC などを含む)ないしは、開催地の各都府県の方針に従うことが大前提となります。また、大会参加・運営等に伴う移動・宿泊等に関しては、国土交通省・観光庁等、関連する諸機関の指針に準拠します。

〈参考資料〉

- 「Emergency rules to be followed for the resumption of the road cycling season in the context of the coronavirus pandemic—新型コロナウイルスパンデミックに関連したロードシーズン再開にあたって守られるべき手順について」
—国際自転車競技連合(以下「UCI」)
<https://www.uci.org/road/news/2020/covid-19-pandemic-how-to-return-to-cycling-events>
- 「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」—公益財団法人日本スポーツ協会
<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html>
- 「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドラインについて」—公益財団法人日本自転車競技連盟
https://cutt.ly/JCF_guidelineaboutcovid-19
- 「新型コロナウイルス感染症に関する国土交通省の対応」—国土交通省
<https://www.mlit.go.jp/kikikanri/kikikanri tk 000018.html>
- 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)病原体検査の指針」—厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/000678571.pdf>

II. TOJ 開催における対策事項

1. TOJ 全体の対策事項

- (1) 感染症対策チームの設置、帯同(医師を含む)
- (2) TOJ ホームページにおける関係者・参加者・観客に向けた本ガイドラインの掲載及び周知
- (3) 関係者・(観客を除く)参加者は、大会開催 2 週間前から大会終了まで、行動履歴及び朝夕 2 回の検温、健康状態の記録を所定のフォームにて提出徹底
- (4) 関係者・参加者は、大会終了後 1 週間は各自の体調変化に留意し、発熱や体調不良等の症状が表れた場合は、主催者に申告し、濃厚接触者等の確認を行う
- (5) 大会で規定された参加者は、大会参加前 1 週間以内に PCR または LAMP 検査を受け、陰性を確認した後、大会参加前 24 時間以内に抗原検査(定性または定量)を受け、陰性を確認
- (6) 感染者発覚後の隔離(スペース確保を含む)、医療機関受診、濃厚接触者の確認等プロセスの明確化
- (7) 感染症罹患が発生した場合に備え、各開催地における医療機関や保健所と連携を図る
- (8) 大会会場における入退場導線作成及びサーモグラフィー設置による検温を実施し、発熱者や体調不良者は入場禁止

- (9)大会会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置
- (10)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底
- (11)フィジカル・ディスタンスに留意し、常時マスクを着用する
- (12)各食事会場、食事中においては、フィジカル・ディスタンスに留意し、極力会話を控える
- (13)大会コミュニケ、スタートリスト、リザルト等は、極力メーリングリストや SNS を使用した配布とし、ペーパーレス化を図る
- (14)以下に該当する者は、大会へのいかなる参加(大会会場への来場、観戦含)も不可とする
 - ①過去 1 週間以内から大会会場来場当日までに、下記 a~d を含む体調不良のある方
 - a. 体温 37.5℃以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状(咳、咽頭痛、息苦しさ等)
 - d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
 - ②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記 a~d に該当する方
 - a. 有症状で、発症日から 10 日未満、かつ症状軽快後 72 時間以内
 - b. 症状軽快後 24 時間経過から、24 時間以上の間隔をあげ、2 回の PCR 検査で陰性を確認できていない
 - c. 無症状病原体保有者では、陰性確認から 10 日未満
 - d. 検体採取日から 6 日間経過後、24 時間以上の間隔をあげ、2 回の PCR 検査陰性を確認できていない
 - ③濃厚接触者として自宅待機中、または家族が濃厚接触者として自宅待機中
 - ④家族に①の a~d いずれかの体調不良者がいる

2. バブル方式によるコロナ対策

大きな泡で包むように大会を運営し、選手や関係者の外部との接触を遮断する「バブル」方式

(1)、(2)を合わせて「レースバブル」とする

(1)チームバブル

TOJに参加する全チームの選手、監督、メカニック、マッサー、スタッフ、広報を対象とする
大会参加 2 週間前から大会終了後まで、朝夕 2 回の検温、健康チェック、行動履歴を記録、提出を義務とし、大会参加 72 時間以内に PCR 検査で陰性が確認されていること
大会期間中は、常時マスク着用(選手はレース中を除く)及びフィジカル・ディスタンスに留意した上、可能な限り外部との接触や、レース以外の不要不急の外出を自粛すること

(2)コミセールバブル

TOJで全レースの執務を行うコミセールを対象とする
大会参加 2 週間前から大会終了後まで、朝夕 2 回の検温、健康チェック、行動履歴を記録、提出を義務とし、大会参加 72 時間以内に PCR 検査で陰性が確認されていること
大会期間中は、可能な限り外部との接触や、レース以外の不要不急の外出を自粛すること
常時マスク着用及びフィジカル・ディスタンスに留意した上で、チームバブルと短時間の接触を可能とする

(3)セミバブル

TOJで全レースの執務を行う関係者を対象とする

大会参加 2 週間前から大会終了後まで、朝夕 2 回の検温、健康チェック、行動履歴を記録、提出を義務とし、大会参加 72 時間以内に PCR または LAMP 検査で陰性が確認されていること
大会期間中は、可能な限り外部との接触や、レース以外の不要不急の外出を自粛すること
常時マスク着用及びフィジカル・ディスタンスに留意した上で、チームバブルと短時間の接触を可能とする

対象となる関係者は下記の通りとする

- ・ニュートラルサービス
- ・オフィシャルメカニック
- ・レースドクター
- ・大会ディレクター、事務局スタッフ
- ・レース実況、セレモニーMC
- ・設営・運営担当、宿泊・輸送担当、広報担当、ライブストリーミング担当、セレモニー担当
- ・競技計測担当
- ・新型コロナウイルス感染症対策チーム

(4)バブル外

(1)～(3)に含まれないすべての方を対象とし、上記バブルとの接触は不可とする

やむを得ない事情がある場合は、三密(密閉・密集・密接)を避け、双方マスク着用の上、バブル外の方は更にフェイスシールドを着用、フィジカル・ディスタンス2m以上を保ち、15 分以内に留めること

3. チームバブル(選手、チームスタッフ(チーム広報を含む))の対策事項

- (1)大会参加 2 週間前から大会終了まで、行動履歴及び朝夕 2 回の検温、健康状態の記録を所定のフォームにて提出
- (2)大会参加前 72 時間以内に PCR または LAMP 検査(抗原・抗体検査は不可とする)を受け、結果を主催者に申告
- (3)大会期間中、発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにチーム監督を通じ、コロナ対策チームへ申し出、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない
- (4)チームメンバーは、大会期間中、常時マスク着用を必須とし(レース中を除く)、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う
- (5)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する
- (6)レース前の出走サインは省略とし、IC タグのチェックで出走確認を行う
- (7)レース補給地点へは決まった補給員のみ配置し、補給の際はマスク、手袋を着用する
- (8)会場チームピット内は、基本的にチームメンバー以外の立ち入りは禁止
- (9)チームピットや準備エリアにいる人数に応じて、フィジカル・ディスタンスを確保する
- (10)レース中に唾や痰を吐くことは極力行わない
- (11)選手間のタオル、ボトルなどの共用はしない
- (12)補給に使用したボトル、ジェルなどは指定場所以外に捨てない
- (13)表彰式では、表彰対象選手は、授与されるジャージを自ら着用、副賞等を持参の上、ステージに登壇する

- (14)大会会場や公共の場において、ウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル、スライズボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する
- (15)メディア・スタッフ(フォトグラファー含む)がチーム広報として帯同する場合は、チームバブルに属し、一般メディア及び外部との接触は禁止とし、レース中、プレス車両乗車及びコース上のフォトグラファー・エリアへの立ち入りは不可する
- (16)チーム広報で、複数チームの取材を予定している場合、事前に取材予定全チームから承諾を得ること
- (17)チームカーには、チームに帯同しているチーム広報のみ同乗可能とし、「チームカー同乗申請書」を主催者に提出必須とする
- (18)選手、チームスタッフがチームバブル外のメディアの取材を受ける際は、必ずマスクを着用し、取材者がマスク及びフェイスガードを着用していることを確認した上で、2m以上のフィジカル・ディスタンスを保つ

4. コミセールバブルの対策事項

- (1)大会参加 2 週間前から大会終了まで、行動履歴及び朝夕 2 回の検温、健康状態の記録を所定のフォームにて提出
- (2)大会参加前 72 時間以内に PCR または LAMP 検査(抗原・抗体検査は不可とする)を受け、結果を競技主幹である(公財)日本自転車競技連盟(以下「JCF」)に申告し、コロナ対策チーム、主催者において情報共有する
- (3)大会期間中、発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに JCF 担当者を通じ、コロナ対策チームへ連絡、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない
- (4)コミセールは、大会期間中、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う
- (5)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する
- (6)コミセールカーやオフィシャルカーは、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない
- (7)大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける
- (8)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する

5. セミバブル(大会関係者)の対策事項

- (1)大会参加 2 週間前から大会終了まで、行動履歴及び朝夕 2 回の検温、健康状態の記録を所定のフォームにて提出
- (2)レースバブルとの接触がある者は、セミバブルに属するものとし、大会参加前 1 週間前に PCR または LAMP 検査を受け、陰性を確認した後、大会参加前 24 時間以内に抗原検査(定性または定量)を受け、陰性を確認し、結果を主催者に申告
- (3)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する
- (4)大会期間中、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに所属グループ代表者を通じ、コロナ対策

チームへ申し出、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない

- (5)大会関係者は、大会期間中、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う
- (6)オフィシャルカーや関係車両は、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない
- (7)大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける
- (8)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、着用後のビブス、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する

6. 取材・メディアの対策事項

TOJ 取材において、チームに帯同する「チーム広報」とその他の「メディア」は、明確に区別するものとし、以下は、チーム広報を除く、一般メディア向けの対策事項とする

- (1)大会取材を希望する際は、事前に取材申請を行い、取材同意書をメールまたは Web で提出
- (2)大会取材 2 週間前から取材当日まで、行動履歴及び朝夕 2 回の検温、健康状態の記録を所定のフォームにて提出
- (3)発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない
- (4)取材中は、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行う
- (5)取材中は、事前に送付された不織布ビブス及び AD カードを着用し、取材後は持ち帰りの上、廃棄する
- (6)チームピットエリアは立ち入り禁止
- (7)チームカーへの同乗取材禁止
- (8)可能な限りチームバブルとの接触を避け、選手・チームスタッフ等に取材を行う際は、マスクとフェイスガード着用を必須とし、2m 以上のフィジカル・ディスタンスを保つ
- (9)取材時は、取材者同士のフィジカル・ディスタンスを十分に確保する
- (10)プレス車両は、最大 5 名のみ乗車可能とし、乗車する際は、マスク着用を必須とし、乗車前に手指消毒を行い、車両内は座席の間隔を空けて着席し、会話は控える。また、私物や飲食物を車内に放置しない
- (11)撮影エリア(フォトグラファー・エリア)は、設定された人数制限及びTOJ広報官の指示に従う
- (12)スタート・フィニッシュのフォトグラファー・エリアは、最大 5 名まで入線可能とし、うち 2 名はオフィシャルフォトグラファーとする
- (13)大会会場における施設、またはテント内等では、間隔を空けて着席し、三密を避ける
- (14)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する

7. レース会場に来場する観客の対策事項

- (1)できるだけライブストリーミングによる TOJ 観戦を推奨する
- (2)TOJ ホームページに掲載するコロナ対策や本ガイドラインを事前に確認し、遵守する
- (3)新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」をスマートフォンにインストールの上、大会会場に来場

する 2 週間前から当日帰宅するまでの間の起動を必須とし(Bluetooth 機能を切断しないこと)、陽性者と接触がないことを確認する

「新型コロナウイルス接触感染アプリ『COCOA』インストール用 QR コード」

▶Google Play

▶App Store



- (4)来場時、大会会場(コース沿道を含む)では、常時マスク着用必須とし、マスク非着用の場合は入場不可とする
- (5)大会会場入場時、動線に従い、サーモグラフィーによる体温測定を受ける。検出体温が 37.5℃ を超えた場合は、別途、感染症対策チームより再検温及び聞き取り調査を受ける(結果により、入場をお断りする場合がございます)
- (6)来場者は、適宜手洗い、手指消毒を行う
- (7)大会会場内(コース沿道を含む)、表彰ステージ周辺等において、フィジカル・ディスタンスに十分留意する
- (8)応援や会話などの際、大声を発しない
- (9)チームピットエリアは立ち入り禁止とし、選手やチームスタッフには接近・接触をしない
- (10)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する
- (11)大会会場へのアルコール飲料の持ち込み禁止

Ⅲ.TOJ 開催中止の判断基準(延期はしないものとする)

- 1.日本政府より、大規模イベントの延期・自粛・中止要請が発令された場合
- 2.UCI より、コロナ禍におけるレース大会の延期・自粛・中止要請が発令された場合
- 3.大会開催前に下記のいずれかの理由により参加チームの出場辞退が発生し、出場チームが 8 チーム以下になる場合
 - (1)チーム内で新型コロナウイルス感染症罹患が発生し、チーム内の他の選手やスタッフも隔離が必要な場合
 - (2)大会開催 2 週間前までの期間に、海外のレースに参加した場合
 - (3)選手の体調不良を含む傷病等の原因により、1 チームの最低出場人数 4 名が確保できない場合
- 4.大会期間中に新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生した場合
- 5.その他、大会を中止せざるを得ない事象が発生した場合

このガイドラインは 2021 年 4 月 27 日時点でのものであり、感染状況や政府の対策方針などに基づき、適宜更新いたします。